

# 変貌する言語教育 目次

まえがき iv

## ▼第1部 外国語教育・学習者主体の変遷▼

### 第1章

#### 異文化リテラシーとコミュニケーション能力

クラムシュ, クレア 2

- 1 コミュニケーション能力から異文化学習へ 4
- 2 異文化リテラシーの定義に向かって 13

### 第2章

#### 日本語教育における

#### 「学習者主体」と「文化リテラシー」形成の意味

細川 英雄 27

- 1 戦後の日本語教育の推移と教育パラダイムの転換 27
- 2 学習者中心から学習者主体へ 30
- 3 学習者主体における教育の意味 37
- 4 三者の共存をどう考えるか 41

### 第3章

#### 文化間のずれを調整する能力

クラムシュ・細川論文をもとに

佐々木 倫子 47

- 1 誤訳に現れた“文化リテラシー” 47
- 2 「社会」概念のずれ 50
- 3 教育方法の一致 52

▼第2部 言語教育と多文化社会▼

第4章

新時代、世界の子どもたち、第三の場所

ロビアンコ, ジョセフ 56

- 1 新時代、世界の子どもたち、第三の場所 59
- 2 教育の多元化 64
- 3 オーストラリアの学校における言語 72
- 4 英語話者学習者にとってのイタリア語と日本語 74
- 5 違いを演じる 78

第5章

「移動する子どもたち」と言語教育

ことば、文化、社会を視野に

川上 郁雄 85

- 1 「移動する子どもたち」への日本語教育の課題 86
- 2 オーストラリアにおける異文化間言語教育の議論と実践 89
- 3 「ことばと文化」の言語教育とは何か 95
- 4 ことばの教育と言語能力観の問い直し 100

第6章

アシミナはどのように結婚式をデザインするか

「第三の場所」の行方

門倉 正美 107

- 1 「日本の結婚式」という教材 108
- 2 アシミナの可能性とは? 111
- 3 「移動する子どもたち」と「移動しない子どもたち」 112

▼第3部 言語と社会・文化▼

第7章

「文化リテラシー」とは何か

異文化能力の評価をめぐるヨーロッパの議論から

ザラト, ジュヌヴィエーヴ 116

- 1 ヨーロッパの文脈の中でいかに文化的差異を考慮するか 117
- 2 異文化能力の認知に対し自伝的側面がもたらすもの 127
- 3 政治的かつ科学的対象としての、外国との関係 134

第8章

「言語の獲得 / 習得」と「世界の獲得 / 拡充」の  
一体性について

リテラシーズ概念の共同主観的基礎

砂川 裕一 141

- 1 個人的表象世界の共同主観的形成について 143
- 2 “非母語習得”による個人的表象世界の“拡充”について  
— “リテラシーズ”の記述的理解のために 149
- 3 第二言語習得の準位とリテラシーズ—他章の言及に絡めて 156

第9章

理論の効果を考える

牲川 波都季 165

- 1 異文化能力と言語能力の連動 165
- 2 文化・社会の境界 167

▼第4部 総合コメント▼

第10章

総合コメント

バイラム, マイケル 175

## ▼第5部 総括討論▼

## 討論

## ことば・文化・社会の言語教育へ

文化リテラシー、第三の場所、リテラシーズをキーワードとして

佐々木 倫子・細川 英雄・門倉 正美  
川上 郁雄・砂川 裕一・牲川 波都季

188

- 「文化リテラシー」とは何か：知識／能力の二分法を超えて 188
- リテラシーズという複数性：何でないのか 194
- リテラシーズ教育を実践する：政治・社会制度のなかで 198
- 第三の場所とは：更新され続ける仲介的なプロセス 201
- 言語教育における第三の場所：
  - 複合的な評価の困難が、言語(能力)観の抜本的変更を要請する 205
  - コミュニケーション能力観もまた変更を迫られる：
    - 4 技能別では捉えられない 212
  - 単一基準でない基準とは 214
  - 教育場面の権力構造の改変にむかって 215
  - 単一リテラシー(読み書き能力)という特権を超える 217
  - 言語教育における非言語要素の扱い1 218
  - コミュニケーション活動全体として捉える 219
  - 言語教育における非言語要素の扱い2 219
  - コースのゴールは言語化だけか 222
  - コースの中の言語化の位置 224
  - コミュニケーション能力養成か言語化能力養成か 227
  - 外言と内言の往還をさせることが目的なのか 228
  - 言語教育はコミュニケーションのどこまでに関与できるか 229
  - 大きなコミュニケーション教育における評価の根拠・手段はどこか 232
  - 達成感・満足感が、これまでの評価の目盛りに戻元されてしまう 234
  - 明確化された担当者の教育観・能力観だけが教育の根拠足りえる 237

総括討論を終えて 242

執筆者紹介 252